

令和7年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第9号（12月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和7年11月27日発表：沖縄气象台）

平均気温	降水量	日照時間
ほぼ平年並	少ない	平年並が多い

○12月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		11月の発生量 (平年比)	11月からの 増減	12月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① メイチュウ類（カンシャシクイハマキ・イネヨトウ）（夏植え）	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
（温州みかん）	① そうか病	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
（カンキツ）	① かいよう病	やや多	↘	やや多	平年の発生量の推移（↘）
マンゴー	① ハダニ類	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	カイガラムシ類	一部施設でカイガラムシ類の発生がみられた。 カイガラムシ類は一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。またハブブラシ等で成幼虫をこすり落とすことも密度低減に有効である。多発すると防除が困難になるため早期発見・防除に努める。

令和7年度 宮古群島 病害虫発生予報 第9号（12月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和7年11月27日発表：沖縄气象台）

平均気温	降水量	日照時間
ほぼ平年並	少ない	平年並が多い

○12月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			11月の発生量 （平年比）	11月からの 増減	12月の発生量 （平年比）	
さとうきび	①	メイチュウ類（カンシャシクイハマキ・イネコトウ）（夏植え）	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
マンゴー	①	ハダニ類	多	→	多	平年の発生量の推移（→）
（施設） ニガウリ	①	タバココナジラミ	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移（→）
	②	アブラムシ類	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
（施設・ とうがん 立体 栽培）	①	ハモグリバエ類	やや多	→	並	平年の発生量の推移（→）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	黒穂病	複数の新植夏植えほ場で確認された。発病株からの孢子飛散を防ぐためにビニール等で袋かけして抜き取り、処分する。
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	カイガラムシ類	一部施設でカイガラムシ類の発生がみられた。 カイガラムシ類は、一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。また、ハブラシ等で成幼虫こすり落とすことも、密度低減に有効である。多発すると防除が困難になるため、早期発見・防除に努める。

令和7年度 八重山群島 病害虫発生予報 第9号（12月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和7年11月27日発表：沖縄气象台）

平均気温	降水量	日照時間
ほぼ平年並	少ない	平年並が多い

○12月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			11月の発生量 （平年比）	11月からの 増減	12月の発生量 （平年比）	
さとうきび	①	メイチュウ類（カンシャシクイハマキ・イネヨトウ）（夏植え）	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
マンゴー	①	ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
（ニガウリ施設）	①	斑点病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	②	タバココナジラミ	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	③	アブラムシ類	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病虫害（八重山群島）

作物	病虫害名	発生状況及び防除事項
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	枝枯細菌病	一部施設で発生が見られた。本病は風害による枝の傷口から細菌が侵入して発病すると考えられるため、防風ネット等により風害を防ぐ。また発病枝は速やかに剪定し、施設外へ持ち出し処分する。
	かいよう病	一部施設で発生が見られた。本病は雨水により伝搬された細菌が風害による傷口や気孔から侵入して発病するため、風雨の当たりやすい場所で発生しやすい。防風ネット等や雨よけにより風雨を防ぐとともに、ハウス内の残さ処理を徹底し、登録薬剤による予防散布を行う。
	カイガラムシ類	一部施設でカイガラムシ類の発生が見られた。カイガラムシ類は、一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。またハブラシ等で成幼虫をこすり落とすことも、密度低減に有効である。多発すると防除が困難になるため、早期発見・防除に努める。